

幻視（げんし）・錯視（さくし）って何？

レビー小体型認知症の特徴的な症状の1つに、そこにはないものが見える「**幻視**」や、見間違えたりする「**錯視**」があります。

パーキンソン病でも同様の症状が起こることがあり、そこにあるものが別のものに見えることが特徴です。

<例>



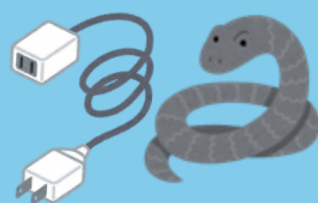
ハンガーにかかった服が
人に見える。



暗い中、影を
「子どもが来た」と言う。



食べ物に「虫がいる」と
言い食べない



コード類がへびに見える

ご本人にとっては見えているため、見間違いの訂正は困難です。否定することでさらに不安が増大し混乱が悪化することがあります。

電気をつける、一緒に直接手で触れて確認するなどの対応で軽減することがあります。

否定せず「怖かったね」など気持ちを代弁、共感し、安心感を持ってもらうことが大切です。